

美術の授業における支援が必要な生徒のための ワークシートの研究

学籍番号 (199355)

氏名 (森本 杏花)

主指導教官 (佐藤 賢司)

1. はじめに

筆者は、学校実習や学校サポーターとして務める際に、自分自身が、支援が必要な児童生徒に特に注目していることに気がついた。その理由を考えた際に、自分自身が支援を必要としていた児童生徒であったから、という理由が大きいことに気がついた。様々な困難があった幼少期だったが、図画工作・美術の授業は意欲的に参加していた。その際に、評価によって自己肯定感を高めた経験から、筆者は美術に対して、他の教科とは異なるアプローチが生徒にできる教科だと考え、支援が必要な生徒に対しての方策を考える際に、美術の授業に関する研究をすることとした。

2. 美術の授業において目指すこと

学習指導要領にも示されているように、平等な学習の機会を儲けることを目指したいと考え、本研究では美術の授業の中で学習面における課題に対して、方策を探りたいと考えた。その際に、学習面における課題について筆者が中学校で非常勤講師を務めた際に、しんどさを抱える生徒がワークシートを多く活用する授業で生徒の授業参加が最もうまくいった経験があり、筆者の経験した学習面における課題をワークシートの活用によって、しんどさの軽減や課題を取り除くことが可能なのではないかと考えた。

3. ワークシートの役割の分類

ワークシートの役割と得られる効果について考える。ここでは、実際のワークシートを収集し分析して考えていく。今回ワークシートを研究するにあたり、教科書会社のワークシートと、現場の先生方が作成したワークシートを収集し分析した。その結果、ワークシートの役割について、『その時に何を大切に示すのかを示す役割』『制作の順番を示す役割』『生徒の考えを残すためのポートフォリオとしての役割』という3つの役割に分類できるのではないかと考えた。

4. ワーキングメモリが弱い生徒に対して美術の授業でワークシートを活用する意義

ワーキングメモリが弱い生徒に対して、美術の授業でワークシートを活用することの意義について述べている。ワーキングメモリが弱い生徒に対しての学習理解における利点を述べて、その後、現場の先生方へのインタビューから考えられるワークシートについての考察を述べている。また、ワークシートを活用することが、生徒と教員の両者にとってのメリットになることを述べている。

5. ワーキングメモリを意識したワークシートの提案

筆者がワークシート作成に当たって、ワーキングメモリの弱い生徒の特性を踏まえて、気を付けたい点について述べている。気を付けたい点は、以下に挙げた『課題の難易度に幅を持たせること』『情報の優劣や順番がわかりやすいこと』『制作の内容や手順などが言語的・視空間的にわかりやすいこと』『UDフォントを使うこと』の4点が、ワーキングメモリを意識したワークシートを作る際に気を付けるべき点だと考えられる。

6. おわりに

学習理解において、スモールステップはとても大切な要素である。しかし、美術の授業の中でスモールステップを実践しようとする、その困難さに苦しむことになる。そこでワークシートを活用して、その困難さを補うことが重要になる。

ワークシートにはさまざまな役割があり、その一つ一つが生徒の学習に対して役立つであろうこと今まで述べてきた通りであるが、その効果は美術の授業であれば尚更大きくなると思う。美術では、こなさなければならない事柄が非常に多く、やることが多いが故に1時間の授業の中での情報量も多くなる。その際に、手元において見返すことができるワークシートで授業の道筋やポイントを上手く示すことができれば、それは生徒が美術の学習をするにあたって、大きな意味を持つであろう。